

レビ人に倣って仕える

井伊 肇

(日立バプテスト教会・教会主事)

日立バプテスト教会は2015年春から無牧師となり、この当初から横浜JOYバプテスト教会から石田政美先生を助言者として派遣いただき、併せて北関東地方連合の祈りと支援を受けながら10年目を迎えようとしています。私は2016年の定期総会で教会主事として立てられ、それを機に2017年4月東京バプテスト神学校に入学し信徒リーダー養成コースを経て、本科を2021年3月に卒業しました。

元々勉強するのが嫌いでしたので、学校を卒業し会社勤めを始める時、ああこれでも勉強しなくても良くなるのだということが一番の喜びでした。ところがとんだ思い違いであり、会社勤めになってもその内容が異なるものの勉強をやらされ続けることになったのです。

しかし、神学校での学びは、大げさかも知れませんが人生で初めて、「学ぶ」ことの楽しさを知ったのです。それまでのやらされる勉強ではなく、知りたいから学ぶ、新たな知見を得ることの喜びによるものでした。今では、神学校で得られたものが私の宝となっています。

2017年5月に連盟宣教部主催の「献身キャンプ」に参加した時に証したことです。3月7日の朝のディボーションで用いた聖書箇所とその箇所から『一日一章』の榎本保郎先生が「十字架とは自分から進んで負うものではなく、できることなら他の人に負ってもらいたいと思うものではないだろうか」と語られた内容と、もうひとつのディボーション聖書箇所が、民数記の「レビ人の人口

調査」でした。レビ人だけが臨在の幕屋で作業を行なうことができることをモーセを通して主が命令されたことでした。その両者が私の心の中で響き合い、レビ人に倣って、私は牧師の働きを補佐し教会を支えることが使命だと示されたのです。

日立教会は小規模ゆえの一人で多くをやらざるを得ない状況と、それゆえに一人で何とかこなせる状況にあります。教会外からの殆どすべての窓口、しもべ会(役員会)・総務・財務の支援、教会全般の保安全管理などを担当していました。無牧師となってからは説教奉仕(現在は月2回)も担当していますので、神学校卒業後もときどき聴講で講義を受けるよう心掛けています。

2023年7月末の主日礼拝の中で、教会からの礼典委託を受諾し、それを目に見える形として按手を受けました。この出来事を通し「信徒相互の牧会を

通して会衆教会を建てあげる」ことの意味を教会員と共に、文言だけでなく身をもって体験できたのです。

今年は教会主事を任じられて8年目にあたります。「安息の年」の翌年と捉え、私にとっても教会にとっても新たな歩みを始める年であり、これも神様の配慮だったと思われています。

私は子どもの頃から内気な性格であり特に人前で話しをすることは最も苦手で、今でも克服できていません。ところがこれまでの人生を振り返ると、いくつもの節目で、何故か人前で話さねばならない立場に置かされてきました。それにより会社生活や教会での奉仕を通じて、生れ持った性格を覆う鎧が少しずつ出来ていったように思います。

これからもレビ人の働きに倣って、エフェソ書にあるように神の武具を身に着け、イエス・キリストの体である日立教会に仕えていきたいと思っています。



2023.7.30 礼典委託按手



伊藤 世里江

(シンガポール国際日本語教会牧師)

東京バプテスト神学校の講座をズームでシンガポールから聴講するようになり3年目になる。シンガポールにしようと、地下鉄の中であろうと、自由に受講でき、都合が悪ければ、後で録画視聴もできる。いつでもどこでも講座での学びを継続できる。

現在、「エゼキエル書を読む」を受講しているが実に面白い!

今まで苦手意識が強かった旧約聖書の奥深さ、楽しさを知ることになり、教会でも旧約聖書を扱うことが増えたように思う。シンガポールから一緒に参加している教会員の人も一緒に、学びを楽しんでいる。聖書の分野は次々と新しい解釈や考古学的発見もあるので、学びをアップデートしていくことはとても大切だと思う。

昨年度は、「グループで学ぶルカによる福音書」の講座も担当させていただいた。参加者は全国各地からであったが、ズームの画面を通して、みなさんがその聖書の箇所から考えたことを聞くことは、とても励ましになった。何十年ぶり?かに画面越しにお会いする方もあった。緊張しながらもわたし自身が学ばせていただいた。

東京バプテスト神学校のおかげで、マンネリ化せずに学びを続け、教会に奉仕できていることを心から感謝したい。



田中 宣之

(筑波バプテスト教会牧師)

私は今年から筑波教会の牧師に就任しました。この数か月はあっという間に過ぎてしまいました。そんな時、東海伝道所の加山彰一先生より東京バプテスト神学校を支える献金に新たに「後援会月々支援」ができたので、筑波教会の壮年の皆さんに伝えて協力してほしいとのメールをいただきました。壮年の皆様にお伝えするには、まず自分が申し込んでみないことにはちょっと気が引けると思いましたので、すぐに申し込みをいたしました。これまでは神学校からニュースや振込用紙が送られてくるたびに「そうだ! 献金しよう」と思っても、雑事に追われているうちに失念してしま



うこともありました。そのような意思の弱い私にこの月々支援はぴったりでした。「しっかり祈ってから自分の意思で送金をするところに神学校を支えるという意味がある」と思っても実践が伴わない意志の弱い私にとっては、仕組みに助けられてもう一度意思を自覚することができるこの制度は大きな一歩を踏み出すきっかけを与えてくれました。世の中の新しい仕組みや外からの様々な助けをいただいてこれからも神学校の支援や諸活動に主のみ心を求めながら自らの意思をもって関わらせていただきたいと思います。

後援会に入り、授業に参加しました!

白井 愛子

(花小金井キリスト教会)

花小金井教会では毎年6月の神学校週間に、東京バプテスト神学校の神学生にメッセージに来ていただいています。皆様、緊張されながらも、これから新しい道に進もうというフレッシュな雰囲気いっぱい、いつも楽しいみな礼拝です。やろう!と思ったことに年齢は関係ないとも気が付かされるよい機会でもあり、私たちが励まされます。

「後援会に入っているから割引があるよ」と、牧師に勧められて、久しぶりに(うわー!二十年以上経っている…)授業を聴講し始めました。対面での出席は、駅の改札を出るとスタートダッシュ!とばかりに走って教室に通ったことを懐かしく思い出し、オンラインで参加であれば5分前に上半身だけ鏡でチェックすれば、パソコンの画面はドラえもん「どこでもドア」♪先生や受講生にお会いすると、教室にいるような気持ちになります。

若い時ならさっと理解して、記憶できたことが、今ではびっくりするほど脳からぼれ落ちる日々、「ああ、もったいない」と思う反面、後からこうだったのかも腑に落ちる考えに出会ったり、時代に即した学び、新しい思考を知る恵みを神学校の授業を通して得ることができました。この機会を感謝して、さらに教会の方々にもこの学びを分かち合い、神学校の皆さんともつながって、信仰の輪が広がり、共に協力する機会が増えるとよいなと思っています。

